



大田市・仁摩町・温泉津町・江津市


出雲地方の石室にそっくり！ 赤井穴ヶ迫古墳

 大田市五十猛町
古墳時代後期に造られた、横穴式石室を持つ古墳。JR山陰本線の線路に近い、ゆるやかな斜面に造られていて、民家裏の竹林にある。石室の石はきれいに加工されたものを組み合わせており、出雲地方の石棺式石室によく似ている。よく観察すると、石と石をしっかりと組み合わせるために、丁寧な加工をしているのわがははずだ。
<交通> JR大田市駅からバス20分 赤井下車、徒歩15分。
<いにしえ> 3巻P33


三瓶がきれいな山岳寺院 円城寺

 大田市三瓶町
<指定>市・史跡
深い森の中にたたずむ天台宗の寺。開山は平安時代で、戦国時代には48坊を有し、寺領3000石を誇る壮大な規模の寺だったと伝えられているが、毛利・尼子の戦乱に巻き込まれ、焼失。境内には石塔や石仏もあり、歴史を感じさせる。近くには三瓶ダムもあり、ドライブの帰りに立ち寄るのもいい。寺からは三瓶山の山並みがきれいに見える。
<交通> JR大田市駅からバス20分 円城寺下車、徒歩5分。
<連絡先> 08548-6-0018


中世のタイムカプセルか 鶴岡南八幡宮

 大田市大田町
<指定>県・建造物 鉄塔附経堂・考古資料
(経筒ほか)
鶴岡南八幡宮境内にある経堂には、県指定になっている鉄塔が納められている。源頼朝の寄進で、尼子経久が修復したと伝えられている。さらに鉄塔の中には長さ12cm前後の円形の銅製経筒が168口納められており、これも県指定文化財。鉄塔が納められている六角経堂は、棟札から1856年の再建であることがわかった。
<交通> JR大田市駅からバス5分 神田橋下車、徒歩10分
<連絡先> 08548-2-0832


国道わきにもこんな遺跡が 天王平廃寺

 大田市波根町
<指定>市・考古資料
奈良時代のもので、石見東部では珍しい古代寺院跡だ。国道9号線のわきに、長さ2mばかりの巨大な自然石を利用した心礎石(塔の基礎にする石)がある。この中央には四角い舍利孔(仏様の骨を入れるところ)がある。この上に壮大な塔が立っていたものと考えられる。目印あり。
<交通> JR大田市駅からバス15分 農業大学校前下車、徒歩5分
<いにしえ> 6巻P31


大田市で一番大きい円墳 竹原古墳

 大田市波根町
かつてあった波根湖を見おろす丘の上に造られた円墳。直径40mは大田市では最大。県内でも円墳では有数の規模を誇る。まわりには墓石が残っており、国道9号線からもよくわかる。看板あり。
<交通> JR大田市駅からバス15分 竹原下車、徒歩5分

固い岩に掘り込まれた横穴墓 大西大師山横穴墓群


 大田市波根町
もとの波根湖を望む山の頂上近くの非常に高いところにある横穴墓群。固い岩を掘り込んでおり、精巧で見事な横穴墓だ。8つの穴が開いている。古墳時代の終末期(6世紀後半～7世紀)に造られたものだろう。
<交通> JR大田市駅からバス10分
<いにしえ> 3巻P33

石見国の一宮 物部神社


 大田市川合町
<指定>国重文・工芸(太刀) 県・建造物(本殿)・工芸(太刀) など
古代より「石見国一宮」として崇敬されていると言われる。祭神は物部氏の祖神・宇摩志麻遲命。社伝によれば1591年吉川元春の寄進で再建されたが、1718年焼失し、1753年再建さ

れた。高さ16.3mの本殿は、春日づくりで県下で出雲大社に次ぐ大きさ。所蔵の了戒銘の太刀は鎌倉時代の作で国の重要文化財。
<交通> JR大田市駅からバス20分 物部神社前下車、徒歩3分
<連絡先> 08548-2-0644
<いにしえ> 6巻P19


石見最大の横穴式石室 明神古墳

 仁摩町仁万
<指定>県・史跡
仁摩平野の北東の通称大平山に連なる山の上にある、直径20mの古墳。形は明らかにされていないが、円墳らしい。砂の上に横穴式石室の一部が露出しており、長さが10m以上。石見地方では最大で、玄室内には家形石棺が置かれており、副葬品には飾りのついた太刀があった。6世紀後半の石見地方東部の有力者の墓だ。砂山の上であり、見に行くのはちょっと難しいかも。
<交通> JR大田市駅からバス25分 立目下車、徒歩10分
<いにしえ> 3巻P32

「国引き」の杭 三瓶山 高野寺


 大田市三瓶町・山口町
島根県のほぼ中央にある。男三瓶を中心に、女・子・孫などの峰で構成される。『出雲国風土記』の国引き神話では佐比売山と記され、大山とともに島根半島を引き寄せた綱を結んだ杭とされている。一帯には自然林や美しい風景にめぐまれ天然記念物も多い。三瓶自然館にも立ち寄りやすい。国立公園の一部として、ドライブや散策が満喫できる。
<交通> JR大田市駅から車25分
<連絡先> 08548-6-0216(自然館)
<いにしえ> 5巻P14

遊んだあとは古代の勉強 楡ノ木谷横穴墓群


 仁摩町天河内
仁摩健康公園造成の際に発見、発掘調査された。山の斜面から横穴墓が見つかったが、このうち1支群のみが現在残されている。周辺一帯は公園内に古墳ゾーンとして復元展示され、説明板などが設置されている。一説には、戦時中に刀が出土したとも。周囲は仁摩健康公園として整備され、一年計砂時計で有名な砂の博物館もすぐそば。
<交通> JR福光駅から車3分

<交通> JR仁摩駅より徒歩10分。
「砂の博物館」すぐ
<いにしえ> 3巻P32


石見最大の横穴式石室 明神古墳

 仁摩町仁万
<指定>県・史跡
仁摩平野の北東の通称大平山に連なる山の上にある、直径20mの古墳。形は明らかにされていないが、円墳らしい。砂の上に横穴式石室の一部が露出しており、長さが10m以上。石見地方では最大で、玄室内には家形石棺が置かれており、副葬品には飾りのついた太刀があった。6世紀後半の石見地方東部の有力者の墓だ。砂山の上であり、見に行くのはちょっと難しいかも。
<交通> JR大田市駅からバス25分 立目下車、徒歩10分
<いにしえ> 3巻P32


弘法大師ゆかりの西の高野山 高野寺

 温泉津町井田
<指定>県・工芸品(銅鐘)
温泉津町から川本町へ向かう県道からはいった所にある真言宗の寺。「西の高野山」とも呼ばれ、中国山地や日本海を望む絶景の地にある。周辺にはつつじがおおよそ5000本も植えられている。夏には宿泊もOK。銅鐘は朝鮮鐘の文様を取り入れたもので、県の指定文化財だ。県道沿いに案内板あり。
<交通> JR温泉津駅から車15分
<連絡先> 0855-66-0043
<いにしえ> 6巻P37


吉川元春、山陰を攻める 不言城跡

 温泉津町福波
別名「福光城」「物不言(ものいわず)城」とも言う。1556年の吉川元春による石見攻略の後、一族の吉川経安が福光湊(現在の福光港)を築き、入城。関ヶ原の戦いののちは廃城になった。山頂には本丸と二の丸、三の丸が残っている。近くには福光石の石切場がある。
<交通> JR福光駅から車3分


温泉のあとに立ち寄ってみてはいかが 恵瑠寺

 温泉津町温泉津
温泉津の温泉街のなかにある日蓮宗の寺院。1523年の創立。石見銀山初代奉行・大久保長安の碑など、銀山の変遷がよくわかる寺宝も多い。仏像の毘沙門天・増長天は、運慶の作という言い伝えがある。
<交通> JR温泉津駅から車5分
<連絡先> 0855-65-2240


港を守る中世の要塞 鵜丸城跡

 温泉津町温泉津
温泉津の港の東、沖泊の海に面した断崖絶壁上にある。対岸には榑島城のある榑島が見える。銀山の積出し港として重要であった温泉津港を守るため、毛利元就の命で築かれたという。温泉津港は、湾が狭く奥深くまで入り込んでいるので、天然の良港である。これらの城はその港の入口をしっかりとガードしているようだ。
<交通> JR温泉津駅から徒歩30分


世界に続く銀山街道 銀山遊歩道

 温泉津町～大田市
江戸時代、世界一の産出量を誇った大森銀山と、銀や食糧の積み出し港である温泉津港を結んだ12kmに渡る遊歩道。途中には、当時の道しるべや、毎日米を馬に乗せて運んだ馬子が遊んだ将棋岩など、銀山にまつわる品が数多く残っている。健脚コースとしてハイキングに最適。
<交通> JR温泉津駅から徒歩30分
<いにしえ> 1巻P39


石見焼の登り窯を見よう やきもの館

 温泉津町温泉津
温泉津町は石見焼の中心地の一つ。江戸時代に北前船の寄港地だったことから、焼き物が集まってきたと考えられる。この館では石見焼の展示のほか、実際に大きな登り窯で焼き物を焼いており、陶器作りも体験できる。
<交通> JR温泉津駅から徒歩10分
<連絡先> 0855-65-4139


衣のひだ美しい、鎌倉時代の仏像 清泰寺

 江津市松川町
<指定>県・彫刻
松平小学校の裏にあり、落ち着いた雰囲気のある寺だ。安置されている木造阿彌陀如来像は鎌倉時代中期の作で、県指定を受けた逸品。標高143mの裏山には中世福屋氏の城・松山城跡があり、井戸跡などが往時をしのばせる。
<交通> JR江津駅からバス20分 松川市下車、徒歩10分
<連絡先> 0855-57-0455


枯山水が美しい庭園 小川家庭園

 江津市和木町
<指定>県・史跡および名勝
江津市和木町の旧家である、小川家書院前庭。室町初期からあったものを雪舟が改造したと伝えられる。背後の崖を借景に「亀石」をはじめ、名石、名木の配置が絶妙で、書院でつろぎながら庭園を楽しむことができる。小川家の方に丁寧に説明してもらえる。
<交通> JR江津駅よりバス10分 向の浜下車、徒歩10分
<連絡先> 0855-53-1213

落ち着いた温泉近くの寺 福泉寺

 江津市上有福温泉町
<指定>県・彫刻
有福温泉からほど近い場所にある寺。近くの大イチョウや有福焼などを見たり、温泉にはいったあとに訪ねてはいかが。安置されている金銅観音菩薩像は、像高31.5cmと小型だが、新羅時代の作と言われ、県の指定文化財。33年に1回しか開帳しない秘仏だ。
<交通> JR江津駅からバス20分 有福温泉下車、徒歩10分
<連絡先> 0855-56-2541

石叢有数の大古墳群 高野山古墳群

 江津市跡市町・二宮町
<指定>市・史跡
なだらかな丘の上に、40基にもおよぶ古墳が存在する大古墳群。大部分が直径10m前後の小規模な古墳だが、その多くが横穴式石室を持っている。なかでもツツラヤ古墳は保存状態がよく、長さ4mばかりの細長い横穴式石室で市の指定史跡だ。古墳時代終りごろの7世紀前半に造られたもの。
<交通> JR江津駅から車15分

せきしゅうがわら いわみやき 石州瓦と石見焼


石見といえばやはり石州瓦と石見焼。今でも親しまれているこの焼き物は、少なくとも江戸時代の後期にまでさかのぼることがわかっています。


石州瓦は、なんとといっても赤く輝く釉薬瓦を思い出します。実はこの赤を出す釉薬は、灯籠や古墳時代の石棺などで有名な、宍道町でとれる来待石をすりつぶしたもので始まったようです。寒冷地でも割れにくい石州瓦は、江戸時代後期の北前船の就航や陸路の発達で各地に広がり、山陰・山陽はもちろん、西は九州、東は北陸にまで広がっていたことがわかっています。こうした伝統と現代にマッチした瓦つくりの努力により、今では島根県は全国有数の瓦生産県となっています。

石見焼は、すりばち、こねばち、徳利など、生活に密着した親しみやすい焼き物を焼いてきています。とくに「ハンド」と呼ばれる水を溜めておいたりする大甕は、石見焼独特のもので、各地に広がっています。今でもときどき肥だめとして畑に埋まっていたりするのでご注意ください。

石州瓦、石見焼は、最盛期には石見地方海岸部のほぼ全域で焼かれ、500力以上の窯跡が確認されています。近年発掘調査も行われはじめ、石見焼を探るうえで貴重な資料を提供するようになりまし



 おたっぴー情報
石見国の国府は、浜田市の東にあったと考えられているが、もとは仁摩にあったものが移転したという説もある。たしかに仁摩には明神古墳などの立派な後期古墳があったり、現在砂の博物館がある場所からは平安時代頃の立派な建物が出土したり、うなづける部分もある。

 おたっぴー情報
温泉津は温泉地として有名だが、じつは海から湾がはいり込んだ天然の良港で、中世から近世にかけて大森銀山の積み出し港や北前船の寄港地として栄えた町だ。あまり知られていないが、今でも温泉津には趣のある古い町並みが残っている。